

若い感性で伝統ある日本料理に 新しい風を吹き込む。

日本料理まるやまかわなか

店主 川中 謙介(かわなか・けんすけ)

札幌市出身、高校卒業後、市内日本料理店で修業。
昨年「日本料理まるやまかわなか」をオープン。



経営者を目指し 料理の道へ

昨年七月、円山にオープンした日本料理店「まるやまかわなか」。

店主、川中謙介さんは二十七歳という若さで「北海道日本料理展」金賞を受賞しているほか、数々の受賞歴を誇る実力派である。

川中さんの父は、現在も手稲区に店を構えるすし屋。「親父の背中を見て育つ」というだけあり、料理を始めたのは幼少期の頃だったという。「小さい頃から親の仕事をずっと見てきたので、誰に教わるでもなく、味付けや盛り付け方などの塩梅(あんばい)も自然と身についたのだと思います」(川中さん)。

高校卒業後、市内の日本料理店で修業を始め、すぐに独立を目標に掲げた。「何でも一番が良くて、先頭に立って行動したい性格で、料理人というよりも経営者になりたいと思っていました」と話す。

だが、経営者として認められる前に料理人として認めてもらう必要があると、常に学び、吸収し、努力してきた。それが料理展やコンクールでの数々の受賞につながっている。

「初めて受賞したときは、自分の仕事か形になったことがうれしかったし、自信につながりました」と語る。創業の準備を進めるにあたり、当所の創業支援を受けて準備を進めた。

古くから伝わる日本料理の 基礎と現代の新しさを融合

昨年七月三十日、ついにオープン。だが、当初はお客さんがまったく来なかったという。

不安な日々を乗り越え、その後、メディアの取材をきっかけに、たちまち席の確保も難しいほどの盛況ぶりとなる。昼も夜も忙しい日々だが毎日充実しているとほほ笑む。

「料理は勝負です。口に入れる前に見ただけで『おいしそう』『参りました』と思わせるように一品一品作っています」と語る。古くからある日本料理の基礎「五味・五色・五法」を重んじながらも、常に新しいものを考え

る。

素材、彩り、どれも見た目に敏感な女性客や舌の肥えたグルメ通に好まれそうなものばかり。

また、珍しい野菜寿司も堪能できる。野菜は無農薬・低農薬にこだわり、特定農家から直接取り寄せている。これだけ凝っているが、ランチは千五百円から、コースは二千円台からとリーズナブルな価格設定も魅力である。

「まずは、円山で一番といわれる店になり、いずれはアメリカにも出店したい」と川中さんは力を込める。



わが社は
これで勝負!!

こだわりの野菜と、
四季折々に合せた豊かな彩り

目でも楽しめる料理の数々。中でも、野菜寿司は野菜が苦手な人でも、ペロリと平らげてしまう。「野菜がこんなにおいしかったなんて」と気づかされる逸品。

住所:札幌市中央区南1条西25丁目 PACKET 地下1階
TEL:011-643-7727



マタニティウエアも作業服も もっとおしゃれに

(株)立歩

代表取締役 森山 加亜奈(もりやま・かあな)
七飯町出身。函館の高校を中退後、札幌へ移り18歳で結婚(その後離婚)。札幌市内で娘2人を育てる傍ら、平成23年4月に起業。

作業員や母親としての経験を
生かしたアイデアで起業を決意

「もっとおしゃれな妊婦服・作業服があったらいいのに」。そんな声と自身の経験から、昨年四月におしゃれなマタニティウエアや作業服ブランド「K A A N A (カーナ)」を立ち上げた(株)立歩(リーフ) 森山加亜奈社長。

森山社長は、二人の女の子をもつシングルマザー。十代で妊娠した際、市販のマタニティウエアは値段が高い上、妊娠中しか着られないものが多く、おしゃれが楽しめないことを知った。その後、倉庫内作業員として働いていた時も、女性が着やすいようなかわいい作業服がないことに疑問を抱いた。そんな中、副業として、おしゃれなマタニティウエアなどの輸入販売を開始したところ、大変好評だったことから、起業を決意し、当所の女性創業塾を受講。平成二十三年に内閣府地域社会雇用創造事業・社会起業プランコンペにて採択され、同年四月に起業に至り、当所創業ビレッジに入所した。

森山社長は、「離婚した時に、社会復帰の難しさを痛感したことか

ら、同じような社会的弱者をたくさん雇用できる会社になりたいと思いついた。現在、商品の縫製・加工・発送といった面で、そういった方々を積極的に採用しています」と話すように、社名「立歩」には、「多くの人に自立のチャンスが与えられる会社」という思いが込められている。

市販のものとはひと味
違ったかわいさが魅力

デザインを学んだことはないが、ファッション誌を見て流行色やデザインを研究し、自身の経験を生かしたアイデアをもとに作り上げていく。購入者からは、「安い・かわいい」と好評で、最近では、自社製品を着て、毎日更新しているフェイスブックページの読者数が増え、それを見て購入するお客様やお問い合わせが増えている。起業する際はほとんど苦勞を感じなかったが、会社をスタートさせてからは何度も挫折を味わったという。し

かし、自身が持つ粘り強さで軌道に乗せることができた。「信念としているのは、あきらめないこと。応援してくれている方々をがっかりさせないためにも続けなければいけない」と森山社長は語る。

母親と社長業を両立させ、忙しい日々を送る森山社長。「まずは、お客様一人ひとりにきちんと接客ができるマタニティ専門の店舗を構えたんです。そして、十代・二十代の若いママたちに特化したファッション雑誌のようなフリーペーパーも作りたい。現在構想中です」と意気込む。

わが社は
これで勝負!!



セミオーダーの作業服

和柄の帯地を使ったものは、1本の帯から1着しか作れないので世界に1つだけ。刺繍やワッペンも作れるので、会社の制服やプレゼントにぜひ。

住所：札幌市中央区北1条西2丁目1-1 北海道経済センタービル1F(札幌創業ビレッジ内)
TEL:011-231-1768 FAX:011-222-9540